

2012年3月期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q. 半導体機器事業において、1-3月期が10-12月期との四半期比較で、売上の増加に比べ営業利益の増加が低い理由は？

営業利益は、10-12月期に比べて研究開発費などの固定費の増加に加え、期末在庫の減少や棚卸資産評価損の増加などにより、売上の伸びほどは増加しませんでした。

Q. 半導体機器事業において、2013年3月期の営業利益の見通しは？

先端技術への投資など研究開発費や、海外サポートメンバーの増員など固定費は増加しますが、コストダウンやプロダクトミックスの改善から増益を見込みます。

Q. 半導体機器事業の足元（4-6月期）の受注見通しは？

4-6月期の受注は、スマートフォンやタブレット型端末などの需要増加を背景にファンドリーの微細化ラインの増強投資が活発であり、現時点では400億円～450億円程度になると予想しております。

Q. FPD 機器事業において今後の見通しは？

2013年3月期は大変厳しい事業環境が予想される中、受注を積み重ね売上の確保を図ってまいります。その中で設計の見直しや部品の海外調達比率を上げるなど、なお一層の変動費、固定費の削減を進め下期には黒字転換を図りたいと考えています。2014年3月期には、中国市場の投資再開や有機EL市場の拡大など、ある程度の市場回復を期待しています。

Q. FPD 機器事業において、2013年3月期の業績予想は当期と比較して、売上げが97億円減少するにもかかわらず、営業損失が改善する理由は？

収益構造改革による固定費削減効果（固定資産減損処理と新規事業への開発メンバーの異動など）と、2012年3月期に発生した棚卸資産評価損がなくなることなどによるものです。

Q. 中期3ヵ年経営計画の目標達成の目処と方策は？

2012年3月期実績、当期業績予想から2014年3月期（3年目）の収益ハードルがかなり高くなりますが、数値目標に掲げた「自己資本比率50%以上」「純有利子負債ゼロ」の達成に向け、収益の拡大と売上債権の早期回収や棚卸資産の削減による総資産の圧縮を集中的に進めてまいります。

以上